

村上地域における「ちほみのり」の多収穫栽培ごよみ

- 品種の特徴**
- 出穂期及び成熟期は「こしいぶき」に比べ10日早い早生のうるち種
 - 耐倒伏性は強
 - 穂発芽性はやや易
 - 心割れが発生しやすい

栽培のポイント

- (1) 健苗育成 : ①育苗日数は20日程度(加温20日、無加温25日)
②播種は4月10日以降、播種量は乾籾150g/箱程度
③5月上旬の移植
- (2) 過剰生育防止 : ①1株苗数3~4本植えとし、茎質向上
②栽植密度は早期茎数確保のため60~70株/坪
③基肥窒素量は、分施で7kg/10a、全量基肥で13kg/10aをめやすとし、高地力ほ場は減肥
④中干し・溝切りを徹底し、根の健全化と茎質向上
- (3) 登熟向上 : ①1回目の穂肥時期が幼穂形成期であるため、幼穂確認と遅れない穂肥
②出穂前後25日間は飽水管理とし、田面を乾かさず地力窒素の発現を促進
③落水は出穂25日以降とし、登熟向上
- (4) 病虫害防除 : ①いもち病の箱処理剤使用
②いもち病とカメムシ類の同時防除
③紋枯病の発生量に応じた適期防除
- (5) 胴割れ発生防止 : ①刈り遅れしない適期収穫
②刈取水分に応じて乾燥温度を調節
- (6) 土づくり : ①稲わらの秋すき込み
②土づくり肥料や堆肥等有機物の施用

目標の収量構成と品質	
目標収量	660kg/10a
穂数	590本/m ²
1穂籾数	61粒
m ² 当り籾数	36,000粒
登熟歩合	83%
千粒重	22.0g
玄米タンパク質	6.5%

基本は「適正生育量の確保」と「登熟の良い稲づくり」

